# 長久手市における現況及び都市構造上の課題の整理

## 上位・関連計画

●本計画は長久手市都市計画マスタープランの高度化版であり、以下の上位計画に即すとともに、関連計画と整合

**上位計画：**

**ながくて未来図（第 6 次長久手市総合計画）**
**名古屋都市計画区域マスタープラン**
**第 3 次長久手市土地利用計画**

**関連計画：**

**ネットワーク** 第 2 次長久手市地域公共交通網形成計画　**公共施設** 長久手市公共施設等総合管理計画、長久手市公共施設個別施設計画、長久手市学校施設長寿命化計画
**公共施設（個別）** 長久手市スポーツ施設等整備計画　**環境** 長久手市景観計画　長久手市緑の基本計画、第 4 次長久手市環境基本計画、長久手田園バレー基本計画、長久手市里山プラン
**健康・福祉** 地第 2 次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画、ながくて地域包括ケアみらいスケッチ、長久手市子ども・子育て支援事業計画、長久手市健康づくり計画
**防災** 長久手市地域防災計画、長久手市国土強靭化地域計画　**市民協働** 第 2 次長久手市地域協働計画、第 2 次長久手市生涯学習基本構想、長久手市教育振興基本計画

## 現況整理

### （1）人口

●人口・世帯数は 1990（平成2）年にかけて急増し、以降も増加が続いているが、増加傾向は鈍化【P12】
●核家族化の進行や単独世帯の増加により、世帯当たり人員は減少【P12】
●年少人口・生産年齢人口ともに増加が続いている【P14】
●高齢化率は全国・県平均に比べて低い水準にあるが、**高齢化が加速**【P14】
●特に**土地区画整理事業の実施から長期間経過した地区で高齢者が増加**【P68】
●2020（令和2）年時点で、40 歳代が最も多く、**日本一平均年齢が若い**【P15】
●将来人口（市独自推計）は、増加が続くものの、**2035（令和 17）年をピークに減少に転じる**【P18】

### （2）土地利用

●市街化区域では、低未利用地や農地から、住宅用地や商業用地などへの転換が進んでいる【P21】
●**住宅地の外周道路の沿道に商業用地が立地**し、住工の混在も少ない**良好な市街地が形成**【P21】
●本市では、一戸建てを購入して転入する世帯が増加【P26･27】
●高層の共同住宅が増加するなど、土地利用の高度化が進んでいる【P26･27】
●空き家率は、愛知県下の市の中で最も低い水準【P28】

### （3）都市機能

●**都市機能は、西部の市街化区域に多く立地**【P31～34】
●医療施設、高齢者福祉施設、子育て支援施設は西部に多く立地しており、東部の市街化調整区域は徒歩圏800mから外れている【P31～33】
●**商業施設は、市街化区域の多くが大型店舗の徒歩圏800mに含まれますが、一部で徒歩圏外がみられる**【P34】

### （4）都市施設

●土地区画整理事業の実施から長期間経過した地域では、幹線道路にアクセスする**市道の老朽化が進行**【P35】
●土地区画整理事業の実施から長期間経過した地域では、**公園の老朽化が進行**【P37】
●2020（令和 2）年時点の下水道普及率は96.0%【P40】

### （5）市街化形成過程

●**市街化区域の大部分が、土地区画整理事業により計画的に整備**された市街地【P41】
●市街化区域において人口集積が進行し、**コンパクトで高密度な市街地が形成**【P44】

### （6）道路・交通・移動

●主要な幹線道路における交通量が多く、渋滞が発生【P47】
●**リニモ利用者数は増加傾向**にあったが、2020（令和2）年は**新型コロナの影響により大幅に減少**【P50】
●**N-バスが5路線運行**されているが、**近年の利用者数は減少**【P50】
●駅端末交通手段は、徒歩が多い【P53】
●**公共交通利用圏は概ね市全域をカバー**【P74】

### （7）財政

●財政力指数は 1.0 を常に上回っており、2013（平成 25）年以降上昇傾向【P57】
●高齢者の増加による扶助費の増加をはじめ、**歳出額の増大が予想**【P58】
●**公共施設等の修繕、更新費用の増加が見込まれる**【P59】

### （8）災害

●香流川沿いの一部地域では、洪水による浸水被害が想定【P61】
●一部の地域で土砂災害のリスクが想定【P65】

## 対応が求められる将来の情勢変化

**■将来的な人口減少への転換**
●2035（令和 17）年をピークに緩やかな減少に転じることが予測される将来の人口を見据えた持続可能な都市構造の構築が求められます。

**■高齢化の進行**
●今後 20 年間で高齢者になる人口（45～49 歳）が最も多く、将来的には高齢者数が増加していくため、高齢者にとっても暮らしやすい市街地の形成が求められます。

**■施設の老朽化**
●市街化区域の約８割が土地区画整理事業の市街地であり、都市施設は今後同時に老朽化するため、高齢化の進行等も踏まえた都市施設の老朽化への対応が求められます。

**■激甚化・頻発化する災害**
●本市では一部で土砂災害や洪水による浸水が懸念されるものの、大きな被害は想定されていません。一方、今後、気象災害の更なる激甚化・頻発化が予測されている中で、対応を検討していくことが求められます。

## 都市構造上の課題の整理

**■生活に必要な施設の維持・充実による高い人口集積が維持された身近な生活圏の形成**
●将来、人口減少に転じることが予測される中でも、日常的な都市機能の立地や地域の交流機能の形成を促すことで人口集積を図り、これまで形成してきたコンパクトな市街地を維持することが必要です。
●今後、高齢者が増加する中でも歩いて便利な生活を送ることができる身近な生活圏を形成していくことが必要です。

**■多くの人が利用する都市機能の立地による魅力的な拠点形成とネットワークの形成**
●長久手古戦場駅及び長久手市役所周辺の都市機能複合拠点、杁ヶ池公園駅及び公園西駅周辺の生活交流拠点においては市内外から多くの人が利用する魅力的で便利な拠点の形成が必要です。
●また、高齢者をはじめとする市民が拠点にアクセスすることが容易な公共交通等のネットワーク形成が必要です。

**■土地区画整理事業により整備された地域における高齢化を踏まえた施設の維持・更新**
●土地区画整理事業により整備された地域では、高齢者も同時期に増加していくことが考えられ、都市施設に求められる機能が変わっていくことも考えられるため、高齢化等の人口動向を踏まえた都市施設の維持・更新が必要です。

**■激甚化・頻発化する災害を踏まえた防災・減災対策への対応**
●香流川の想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域が市街化区域の一部で想定されています。また、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域ついても指定されている地区があります。こうした区域は限定的な範囲であり、ソフト対策も含めた個別の対応が必要です。